

佐々木雄二先生のご退職にあたって

間島 英俊

Farewell words to Professor Yuji Sasaki

Hidetoshi Majima (*Chairman of the Department of Psychology, Komazawa University, Japan*)

佐々木雄二先生は平成19年3月にて定年を迎えられ、専任としては昭和46年4月から昭和54年3月までの8年間、そして平成10年4月から平成19年3月までの9年間、その間非常勤講師の20年を入れ、通算37年間の本学における教員生活を終えられんとしている。今、先生に送別の言葉を述べるにいたって先生が専任として在職されたこのふたつの時期は、私自身、先生とのかかわりの中において感慨深いものがあり感謝の気持ちと深い惜別の念がこみ上げてくることを禁じ得ない。

まず佐々木先生が駒澤大学にご着任された最初の時期は、前々年度に社会学科に心理学コースが開設され、創設期であったことである。駒澤大学学園通信(272号)における「駒澤大学での37年間と私」の中で、「診療室で臨床実践にあたる医師から教室で講義し研究指導に当たる教師へと、私の人生にとって大きな転換点でした。」と述べられているように、その教育指導に大いなる情熱をもってその任に当たられた時期でありました。私事ではありますが、その創設期に臨床実習を受講し、初めて先生のご専門の自立訓練法の手ほどきを受けた記憶が、今、鮮明に浮かんできます。

ふたつ目の時期は、先の創設された心理学コースが平成10年に待望の心理学科として誕生した時期に、再度専任としてお戻りになり、さらに平成15年4月大学院臨床心理士I種指定校の認定にご尽力されるといった、いずれも心理学研究室が大切な時期に先生がかかわられたことである。役職としては駒澤大学文学部教授、同大学大学院人文科学研究科専攻主任、同大学コミュニティケアセンター心理相談室初代主任、保健管理センター所長などの重責を勤められ、さらに特筆するならば、先生ご自身が学生時代に選手としてご活躍された経験により請われ、今は関東大学一部リーグにて活躍中の卓球部部長を長く兼任されたことである。

先の学園通信のお言葉に私なりの解釈を加えると、先生は人生の大きな転換期を越えられ、臨床実践にあたる医師であるとともに研究指導にあたる教師として更なる転換期を越え、実践されてきたように思われる。

それらの実践研究の軌跡は本論集掲載の「佐々木雄二先生の足跡」にも書かれているので参照願いたい。先生ご自身、数多くの国内外の国際会議にも参加されているが、その最高の実践・指導は、昨年、日本において開催され、22ヶ国から1200名以上が参加した国際サイコセラピー会議の会長を務められたことであろう。

再び私事ではあるが、先生が本学に再着任されたふたつ目の時期に、先生に遅れること1年、北海道教養部廃止に伴い、本学に赴任してから今日まで、先生の足元にも及ばない自分が同僚として、また学科主任として拙い言葉にて送別の言葉を述べることは申し訳ない気持ちであるが、何か縁を感じざるを得ない。今、我が家の書斎には、「自立訓練の実際」(創元社1976年)の前と後の見返しには逆さまの先生の自署が書かれており、先生の一面をあらわすものとして家宝となっている。

先生はご壮健であり医者の不養生には当てはまらず、ますます臨床実践家としてご活躍のことと思われませんが、ご自身の人生も視点にお入れになりお楽しみください。これからも心理学研究室ならびに駒澤大学を、末永くご指導いただきますようお願い申し上げます。

略 歴

昭和11(1936)年9月6日広島県生。昭和30年3月修道高等学校卒業。昭和36年3月九州大学医学部卒業。同年4月から翌年昭和37年3月まで広島日赤病院実地修練。昭和37年4月から同年9月まで九州大学研究生(精神身体医学研究施設)。昭和37年10月九州大学医学部附属病院心療内科に副手として就任し、昭和41年5月より同医学部助手。昭和46年6月から54年3月まで駒澤大学文学部助教授。昭和47年「自律訓練法の臨床的応用に関する研究」により九州大学から医学博士(医博乙第505号)の学位を授与さる。昭和54年4月筑波大学心理学系助教授に就任、昭和60年1月より同心理学系教授。筑波大学大学院博士課程心理学研究科長、筑波大学心理・心身生涯教育相談室室長、体育会卓球部部长(顧問教官)などを歴任。筑波大学においては平成10年4月から平成13年3月まで医学部専門学群非常勤講師、現在、心理・心身生涯教育相談室非常勤相談員としても勤務。平成10年3月筑波大学より名誉教授の称号を授与さる。平成10年4月以降、駒澤大学文学部教授。駒澤大学大学院人文科学研究科心理学専攻主任、駒澤大学コミュニティーケアセンター心理相談室主任、保健管理センター所長、産業医、診療所長、体育会卓球部部长など学内運営業務に従事。なお、駒澤大学文学部(学部・大学院)には昭和54年4月から平成10年3月まで非常勤講師としても勤務。平成19年3月駒澤大学定年退職。専門領域は自律訓練法、臨床心理学、健康心理学、心身医学。平成元年に第1回JMI賞(日本自律訓練学会+日本生産性本部)、平成15(2003)年にAward of Honour(Yoga and Psychotherapy Association of India)を受賞。また、日本自律訓練学会第8回大会、日本心身医学会第48回関東地方会、日本交流分析学会第15回大会、日本バイオフィードバック学会第20回大会、日本心理医療諸学会連合第7回大会、日本催眠医学心理学会第42回大会、日本健康心理学会第10回大会、日本心理医療諸学会連合第11回大会、日本トランスパーソナル心理学・精神医学会第3回大会(平成13年)、国際サイコセラピー会議インジャパン(平成18年)において会長を務める。現在、日本自律訓練学会理事長、日本催眠医学心理学会常任理事、日本心身医学会評議員、日本交流分析学会理事、日本心理医療諸学会連合理事、人体科学会常任理事、日本慢性疼痛学会理事、日本健康心理学会常任理事ならびに研修委員長、日本心理学会評議員・議員、President of International Committee for Autogenic Training(座長)、Vice-president of World Council of Psychotherapy(アジア代表)、日本心療内科学会理事、日本トランスパーソナル心理学・精神医学会顧問、日本ストレス学会評議員を務めており、他に日本バイオミュージック学会、日本心理臨床学会、国際アジア心身医学会会員。また、これまで大学基準協会・判定員・人間・社会福祉学系専門分科会専門委員、NPO健康心理教育実践センター理事、(財)発達科学研究センター・奨学制度選考委員、中央労働災害防止協会委員、PL健康管理センター東京診療所(医師)、北里大学(客員助教授)、国立大蔵病院附属看護助産学校(非常勤講師)、最高裁判諸過程裁判所調査官研修所(非常勤講師)、埼玉県立衛生短期大学(非常勤講師)、上越教育大学大学院(非常勤講師)、新青山クリニック(心療内科医)、早稲田大学(客員研究員・非常勤講師)中京大学大学院(非常勤講師)、国立精神・神経センター(客員研究員)など多方面における活動がある。上述の医師資格の他に、現在、日本心療内科学会認定心療内科医、日本催眠医学心理学会認定催眠技能士、日本臨床心理士認定協会認定臨床心理士、日本自律訓練学会認定自律訓練法基礎指導資格、同認定自律訓練法臨床・専門指導資格、日本健康心理学会認定指導健康心理士、日本医師会認定産業医、日本サイコセラピー学会認定日本欧州共通サイコセラピスト資格などの資格を持ち、British Society of Autogenic Training, European Committee for the Advanced Analytic Autogenic Training, The International Society of Research and Education in Communication-Cooperation-Liaison-StrategiesのHonorary Memberである。また、第3回国際心身医学会議(1975,ローマ)から第5回国際サイコセラピー会議(2006,東京)まで国際学会・国際会議等に44回出席。上記領域に関する著書、研究論文、評論、解説、分担執筆など多数。現在、神奈川県横浜市在住。

業 績

(著書と学術論文に分けて年代順に記載。ただし、国内学会大会の特別講演・招待講演・シンポジウム・ワークショップ・一般発表などは省略。単著の場合には著者名を省略。)

1. 著書

- 1) 思春期診察室 (池見西次郎・編) 1968 朝日新聞社 (pp.209) 共同執筆
- 2) 催眠学講座第5巻：医学 (金子仁郎, 高石昇・編) 「内科領域における自律訓練法」1970 黎明書房 101-110.
- 3) アレルギーの話「アレルギー疾患の治療, ①心理療法」1971 日本放送出版協会 共著 (草野忠良, 佐々木雄二ほか2人), 149-166.
- 4) 催眠学講座第3巻：基礎研究 (金子仁郎, 成瀬悟策・編) 「催眠と自律機能 (腎機能)」1971 黎明書房 57-62.
- 5) 自律訓練法の実際 1976 創元社
- 6) 自律訓練法と心身症 1976 医歯薬出版 共著 (池見西次郎, 佐々木雄二, 松原秀樹)
- 7) 婦人の心身症 (岡村靖・編) 「自律訓練法」1978 金原出版 共著 (佐々木雄二, 山田雄飛), 150-156.
- 8) 心身医学—基礎と臨床 (石川中, 末松弘行・編) 「自律訓練法」1979 朝倉書店 共著 (佐々木雄二, 松岡洋一), 300-310.
- 9) 自律訓練法 (小冊子; 第2回改訂版; pp.18) 1981 日本文化科学社
- 10) 子どもの精神衛生 (高野清純, 佐々木雄二・編) 「心とからだ」単著, 69-78, 「脳の発達と精神衛生」共著 (松岡洋一, 佐々木雄二), 41-52, 1981 教育出版
- 11) 職場のメンタル・ヘルス (内山喜久雄, 小田晋・編) 「自律訓練法」1982 有斐閣 199-206.
- 12) 今日の治療・心身症 I 「自律訓練法」1982 三和化学研究所 19-22.
- 13) 現代社会と子ども (加藤隆勝・編) 「現代社会と子どもの精神衛生」1984 朝倉書店 147-160.
- 14) 心身症診療 I (小此木啓吾ほか・編) 「自律訓練法の標準練習」472-475, 「自律訓練法の特異な練習法」476-479, 「筋弛緩法」480-483, 1984 六法出版
- 15) ビジネスマンの自律訓練法入門 1985 ごま書房
- 16) 心身障害の診断と治療 (藤原喜悦, 高野清純, 稲村博・編) 「アレルギー反応」1985 教育出版 共著 (松岡洋一, 佐々木雄二), 151-170.
- 17) 心身医学のすすめ (石川中・編) 「自律訓練法」1985 筑摩書房 103-119.
- 18) ストレスの科学と健康 (河野友信・編) 「自律訓練法」1986 朝倉書店 共著 (松岡洋一, 佐々木雄二), 210-215.
- 19) 実地臨床に活かす精神療法「自律訓練法」1986 ライフサイエンス・センター, 179-188.
- 20) 心身症の新しい診療と治療「心身弛緩訓練」1987 医薬ジャーナル社 共著 (鈴木聡志, 佐々木雄二), 179-186.
- 21) 不安の科学と健康 (河野友信・編) 「自律訓練法」1987 朝倉書店 共著 (鈴木聡志, 佐々木雄二), 271-276.
- 22) 心身症の治療「自律訓練法」1988 小玉株式会社出版部, 37-39.
- 23) 心理治療法ハンドブック (伊藤隆二・編) 「自律訓練法」1989 福村出版 共著 (笠井仁, 佐々木雄二), 736-767.
- 24) メンタルヘルス・ハンドブック「自律訓練法」1989 同朋舎出版 共著 (杉江征, 佐々木雄二), 681-690.
- 25) 現代の心理臨床 (本明寛, 大村政夫・編) 「自律訓練法」1989 福村出版 共著 (笠井仁, 佐々木雄二), 243-262.
- 26) 口腔心身医学講座第I巻・総論編 (池見西次郎・監修) 「ストレスと心身症, 神経症の発症」, 「精神生理と心身症, 神経症の成り立ち」1989 書林 共著 (松岡洋一, 佐々木雄二), 127-148.

- 27) 透析患者の精神医学と心理療法 (赤間立枝・編)「透析患者に役立つ精神・心理療法, ③自律訓練法」1989 日本メデイカルセンター 共著 (神村栄一, 佐々木雄二), 117-121.
- 28) サラリーマン・アパシー(延島信也・編)「同一性葛藤, 五月病, 新人類」1989 同朋舎出版, 168-179.
- 29) 心身症 (精神科 MOOK No.24)「心身症に対する自律訓練法・筋弛緩法」1989 金原出版 共著 (井上忠典, 佐々木雄二), 109-116.
- 30) 心身症診療・追録第5号「自律訓練法の実際」1989 六法出版, 479の2-5.
- 31) 自律訓練法 (佐々木雄二・編)「自律訓練法」1-22,「自律性中和法その他の技法」85-93,「生涯教育講座における集団自律訓練法」188-199,「自律訓練法の現況と今後の課題」200-204, 1989 日本文化科学社
- 32) 現代臨床心理学 (台利夫, 小川俊樹・編)「行動論」138-142,「行動療法」201-205, 1990 教育出版
- 33) 心身医学のための心理療法と心身医学的療法 (河野友信, 末松弘行, 新里里春・編)「自律訓練法」1990 朝倉書店 共著 (坂入洋右, 佐々木雄二), 133-137.
- 34) ストレス社会と心の健康, 第1巻 高度情報化社会の健康と医療 (早石修・監修)「自律訓練法」1991 世界保健通信社, 286-291.
- 35) ストレスの仕組みと積極的対応 (佐藤昭夫, 朝長生徳・編)「ストレスと自律訓練法その他のリラクゼーション技法」1991 藤田企画出版, 189-193.
- 36) 自律訓練法入門 1991 ごま書房
- 37) 生徒指導・教育相談 (佐々木雄二・編) 1991 福村出版 編・単著, 8-14.
- 38) 心身症 (中川哲也・編)「自律訓練法」1992 南江堂 共著 (佐々木雄二・鈴木常元), 81-86.
- 39) 現代のエスプリ 297: 催眠療法 (成瀬悟策・編)「催眠から自律訓練法へー自律訓練法成立史」1992 至文堂, 123-132.
- 40) 催眠療法を考える (成瀬悟策・編) 1992 誠信書房 共著 (笠井仁・佐々木雄二)
- 41) Hypnosis: 175 Years after Mesmer. Recent Developments in Theory and Application. W. Bongartz (Ed.) Right Hemispheric Information Processing Speed and the Depth of Hypnosis: Evidence from Reaction Times to a Laterally Presented Visual Matching Test. 1992 Universitätsverlag, Konstanz. Dewaraja, R., Ikezuki, M., Sasaki, Y.
- 42) モダン・クリニカルポイント 心療内科 (中川哲也, 末松弘行・編)「心身症に対する自律訓練法の指導」1992 金原出版, 66-67.
- 43) 妊娠婦体操の理論と実際 (改訂版) (松本清一・監修)「精神生理学的基礎: 精神生理的弛緩法としての自律訓練法」1993 全国母子健康センター連合会, 144-153.
- 44) 心理療法入門 (小川捷之・監修)「自律訓練法」1993 金子書房, 170-177.
- 45) 現代のエスプリ 1993 至文堂 共著 (佐々木雄二・伊東明子)
- 46) 心理面接学 (岡堂哲雄・編)「自律訓練法」1993 垣内出版 共著 (佐々木雄二・富岡光直), 473-487.
- 47) 人間の発達と臨床心理学 1 生涯発達と臨床心理学 (伊藤隆二, 橋口英俊, 春日喬・編)「自律訓練法」1994 駿河台出版 共著 (佐々木雄二・田中輝美), 219-231.
- 48) 新版心身医学 (末松弘行・編)「自律訓練法」1994 朝倉書店 共著 (佐々木雄二・大森美香), 243-252.
- 49) 指導者のための卓球Ⅲーチャンピオンを目指す卓球 (倉木常夫他・編)「卓球競技における心のコントロール」1995 不昧堂出版, 208-214.
- 50) 心の不思議学・入門講座 5ー正常と異常 (小田晋・監修)「自律訓練法ー7段階方式による入門」1994 日本通信教育連盟生涯学習局, 68-77.
- 51) 臨床心理士入門 (改訂版) (大塚義孝・編)「筑波大学」1995 日本評論社, 104-105.
- 52) 心身症ハンドブック (桂戴作・編)「自律訓練法」1995 ヴァン メディカル, 66-67.
- 53) 精神療法を学ぶ (末松弘行, 中川哲也, 上里一郎, 清水義治・監修)「自律訓練法を語る」(聞き手:

- 三島徳雄) 1996 ナカニシヤ出版, 27-40.
- 54) 自律訓練法の臨床—心身医学から臨床心理学へ— 1996 岩崎学術出版
- 55) 精神分析療法 (牛島定信・編集企画)「自律訓練法と精神分析」1996 金原出版 共著 (笠井仁・佐々木雄二), 155-164.
- 56) よくわかる心療内科 (桂戴作, 山岡昌之・編)「自律訓練法」1997 金原出版 共著 (佐々木雄二・宮崎隆穂), 95-98.
- 57) 現代のエスプリ No.360 (河野友信・編)「自律訓練法・漸進的弛緩法」1997 至文堂 共著 (佐々木雄二・後藤和史)
- 58) 精神療法マニュアル (阿部裕ほか・編)「自律訓練法・バイオフィードバック法」1997 朝倉書店 共著 (佐々木雄二・富岡光直), 78-80.
- 59) 心理学者が語る心の教育 (行吉哉女, 田中敏隆・編)「私が受けた小学校教育」1999 実務教育出版, 34-37.
- 60) うつ病・うつ状態のマネジメント (桂戴作・編)「プライマリ・ケアでできる心理療法 ②自律訓練法の初歩」2000 医薬ジャーナル社, 29-30,
- 61) 自律訓練法 現代のエスプリ, No.396 (pp. 206)「座談会」,「国際的動向」,「通信指導と市民講座」2000 至文堂 笠井仁・佐々木雄二 (編・著)
- 62) 産業カウンセリング・ハンドブック (共編・著)「自律訓練法」(pp.395-398),「バイオフィードバック」(p.399-402),「東洋的行法 (ヨーガ, 気功法, 呼吸法)」(pp.413-417) 2000 金子書房
- 63) Bodywork and Psychotherapy in the East. Yuji Sasaki (Eds), Eburon Publishers, The Netherlands, 2000. Foreword: Psychotherapy and Oriental Thoughts. p.167, Influence of Buddhism on the Psychotherapy in Japan, p.169-178.
- 64) 自己調整法 (単著, 一般書) 2001 青春出版社
- 65) 健康心理学概論 (責任編集: 山本多喜司, 野口京子) 分担執筆: 第8章 3—6 (pp.119-128)「脳卒中, 糖尿病, 消化性潰瘍, 慢性疾患および終末期医療」実務教育出版社 2002
- 66) 健康と生き方を考える (現代人の心の支援シリーズ4: 成人・老人期) 分担執筆: 「息抜きの効用—心身医学の立場から—」(p.119-p.130) 慶応義塾大学出版会 2002
- 67) 厚生労働省指針に対応したメンタルヘルスケアの基礎 (社内教育指導用 CD-ROM 付き) 中央労働災害防止協会 (編) 職場におけるメンタルヘルス対策支援委員会教育研修部会 (川上憲人, 河野慶三, 佐々木雄二, 下光輝一, 土田悦子, 広尚典, 渡辺賢一) 2002
- 68) 母子の健康・生活科学 (第3版・助産学大系6)「妊産婦の精神生理学」(p.248-p.255) 日本看護協会出版会 2002
- 69) Psychotherapy in the World (Ed. Pritz, A.), Psychotherapy in Japan. 2002
- 70) 健康心理カウンセリング概論 (責任編集: 佐々木雄二・小玉正博)「健康心理カウンセリングの理論と方法」健康心理カウンセリングの概説 (p.21-24) 自律訓練法 (p.40-48) 実務教育出版, 2003
- 71) 健康教育概論 (責任編集: 滝澤武久・木村登紀子) <topics>「健康日本21」(p.174) 実務教育出版 2003
- 72) 医療従事者のための補完・代替医療 (編集: 今西二郎)「自律訓練法」(p.232-p.239) 金芳堂 2003
- 73) ストレス疾患ナビゲーター (監修: 樋口輝彦, 編集: 久保木富房・中村純・山脇成人)「自律訓練法」(p.218-219) 佐々木雄二・田村英恵 メディカルレビュー社 2004
- 74) 「知っていれば予防できる, 心の医学」(公務員のための新メンタルヘルスハンドブック・法務省版) 佐々木雄二・夏目誠・山岡昌之 社会保険出版社 2004

2. 学術論文

- 1) 精神身体医学よりみた老人. 池見西次郎, 前田重治, 中川哲也, 佐々木雄二, 高橋和子 1962 臨床と研究, 39 巻 9 号 1331-1336.

- 2) 精神身体医学よりみた高血圧症（その発生機転）. 池見西次郎, 佐々木雄二 1963 総合臨床, 12 卷 1 号 33-39.
- 3) 精神身体医学よりみた症状の解析. 池見西次郎, 本田龍城, 諸永昌幸, 佐々木雄二, 安松昭道 1963 治療, 45 卷 2 号 188-194.
- 4) 精神身体医学からみた意識障害. 池見西次郎, 木村政資, 大野喜暉, 佐々木雄二 1964 診療, 17 卷 6 号 788-792.
- 5) 自律訓練法の臨床的応用. 前田重治, 佐々木雄二, 安松昭道 1964 精神身体医学, 4 卷 4 号 212-216.
- 6) 自律訓練法の心理学的側面. 前田重治, 佐々木雄二, 安松昭道, 大野喜暉 1964 精神分析研究, 11 卷 1 号 5-7.
- 7) 心因性疼痛. 池見西次郎, 佐々木雄二, 大野喜暉, 安松昭道 1964 診療, 17 卷 9 号 1213-1218.
- 8) 精神身体医学の立場からみた自律神経失調. 池見西次郎, 銅直春雄, 黒木かほる, 菅野久信, 佐々木雄二, 山口剛 1967 総合臨床, 16 卷 4 号 766-773.
- 9) 自律訓練法の臨床的応用に関する研究. 1967 福岡医学雑誌, 58 卷 7 号 641-664.
- 10) 集団自律訓練法における音楽の応用. (自律訓練法の臨床適応一第 4 報) 佐々木雄二, 黒木かほる, 堤暉美子 1967 精神身体医学, 7 卷 6 号 48-49.
- 11) 自律訓練法の展望. 1971 医学のあゆみ, 78 卷 9 号 575-576.
- 12) 内科疾患（心身症）のリハビリテーションへの自律訓練法の応用. 1971 催眠学研究 16 卷 1 号 24-28.
- 13) 自律訓練法の臨床医学への応用. 1972 医学心理療法研究会報, 2 号 45-47.
- 14) 心身症における自律訓練法. 1973 診療と保険, 15 卷 2 号 45-47.
- 15) 自律訓練法の理論面. 1973 医学心理療法研究会報, 5 号 3-16.
- 16) 坐禅とリラクゼーション. 1973 催眠学研究, 18 卷 1 号 27.
- 17) 自律訓練法の指導技法. 1973 日本臨床催眠医学研究会報, 10 卷 8 号 3-15.
- 18) 書評：「自律中和のダイナミックス」. 1973 精神身体医学, 13 卷 5 号 65-66.
- 19) 自律訓練法 I. 1974 セルフエイジ, 1 号 83-92.
- 20) 自律訓練とはなにか. 1974 セルフエイジ, 2 号 87-96.
- 21) 自律訓練法の実際（その 1）. 1974 セルフエイジ, 3 号 89-100.
- 22) 自律訓練法の実際（その 2）. 1974 セルフエイジ, 4 号 102-113.
- 23) 自律訓練法の実際（その 3）. 1974 セルフエイジ, 5 号 102-111.
- 24) 統合的治療過程における自律訓練法の位置—気管支喘息の一治験例から— . 1975 催眠学研究, 19 卷 1 号 11-16.
- 25) 催眠法・自律訓練法. 1975 からだの科学, 62 号 75-78.
- 26) 自律訓練法の練習過程. 1975 セルフエイジ, 6 号 108-119.
- 27) 自律訓練法を基礎にした治療. 1975 セルフエイジ, 7 号 86-96.
- 28) 黙想練習. 1975 セルフエイジ, 8 号 92-101.
- 29) 特殊練習. 1975 セルフエイジ, 9 号 92-101.
- 30) 自律訓練法と発散. 1975 セルフエイジ, 10 号 96-103.
- 31) Psychological and Physiological Aspects of Zen Meditation and Autogenic Approaches (Abstract). 1975 Medicina Psychosomatica, 20, No.4, 369-371.
- 32) Zen practice (zazen) and autogenic training: A comparison of experimental findings (Abstract). Yuji Sasaki, S. Ando, Y. Taniguchi 1975 Medicina Psychosomatica, 20, No.4, 312-313.
- 33) 内科入院患者（消化器系病棟）における CMI, YG テストの検討. 外山久太郎, 佐々木雄二ほか 1976 北里医学, 6 卷 3 号 220-224.

- 34) 自律訓練法と坐禅の心理学的研究について (学会シンポジウム記録). 1976 宗教と超心理, 4 巻 2 号 8-13.
- 35) 自律訓練法の適応とその実際—自律神経失調症, その治療の実際—. 1976 治療, 58 巻 9 号 69-73.
- 36) 禅的療法. 1977 医学心理療法研究会報, 9 号 48-52.
- 37) On The Zen Therapy—From The Mental Activities During Zazen. Yuji Sasaki 5-9, September 1977, Proceedings, The 4th Congress of The International College of Psychosomatic Medicine, 128-129.
- 38) 自律訓練法とはなにか. 1977 現代のエスプリ No.123 「こころとからだ」, 31-41. (「自律訓練法の実際」1976 年 8 月創元社所収)
- 39) TM (超越瞑想) とは (質疑応答). 1977 日本医事新報, 2797 号 136-137.
- 40) 心身症・神経症に対する Prazepam (K-373) open study—とくに一日量朝一回投与の検討—. 河野友信, 佐々木雄二, 延島信也, 鎮目光雄 1977 新薬と臨床, 26 巻 12 号 115-125.
- 41) Possibilities of Zen Therapy—From a Comparisons between Zen and Autogenic Training. 1977 Bulletin of the Zen Institute of Komazawa University No.1, 457-466.
- 42) 自律訓練法およびその周辺領域と心身医学—臨床的応用における最近の動向—. 1978 治療, 60 巻 3 号 27-33.
- 43) ヨーガの医学的応用 (質疑応答). 1978 日本医事新報, 2818 号 130-131.
- 44) ヨーガと心身医学. 1978 からだの科学, 84 号 20-23.
- 45) “Positive” and “Negative” Aspects of the “Altered States of Consciousness” Induced by Autogenic Training, Zen and Yoga. Ikemi, Y., Ishikawa, H., Goyeche, J.R.M. and Sasaki, Y. 1978 Psychotherapy and Psychosomatics, **30**, 170-178.
- 46) 自律訓練法. 1979 Medicina, 16 巻 4 号 618-619.
- 47) 自律訓練法の現状と今後の課題—ASC の立場から—. 1979 自律訓練研究, 1 巻 1 号 35-40.
- 48) 自律訓練法の治療的応用 (質疑応答). 1979 日本医事新報, 2870 号 132-133.
- 49) 禅と自律訓練法との心理・生理学的関連に関する研究. 内山喜久雄, 高野清純, 藤田紀盛, 佐々木雄二, 赤塚孝雄, 田上不二夫 1980 1978 年度・54 年度文部省科学研究費 (一般研究 C) 報告書, 11.
- 50) 消化器系患者の各種自覚症状に対する Mexazolam (CS-386) の臨床治験. 河野友信, 佐々木雄二, 延島信也, 鎮目光雄 1980 薬理と治療, 8 巻 8 号 2743-2751.
- 51) 自律訓練法の研究法. 1980 自律訓練研究, 2 巻 1 号 37-38.
- 52) 自律訓練法と消化器疾患. 1980 消化器 P S M の会・会報, 8 号 26-28.
- 53) 自律訓練法. 1981 内科, 47 巻 4 号 637-640.
- 54) 書評: 「心理療法におけるイメージ」. 1981 催眠学研究, 25 巻 1 号 35-37.
- 55) 催眠はどのように使われているか: はじめに (シンポジウム抄録). 中村昭之, 佐々木雄二 1981 催眠学研究, 25 巻 1 号 22.
- 56) 消防活動時における緊急反応の制御に関する心理, 生理学的研究. 内山喜久雄, 佐々木雄二ほか, 9 名 1981 消防科学研究所報, 18 号 58-78.
- 57) 自律訓練法. 1981 臨床医, 7 巻 10 号 139-140.
- 58) Zen and Psychosomatic Medicine (pp.7; table 5; fig.1). September 13-18, 1981 A Paper presented at The 6th World Congress of the International College of Psychosomatic Medicine. Montreal, Quebec, Canada.
- 59) 緊急反応制御に及ぼす AT 標準練習の効果. 山口正二, 森住宜司, 坂野雄二, 内山喜久雄, 佐々木雄二 1981 自律訓練研究, 3 巻 1 号 39-47.
- 60) 子どもの性格と心身症. 1981 教育心理, 29 巻 10 号 14-17.
- 61) 自律訓練法の精神衛生への応用. 1982 健康管理, 332 号 31-33.

- 62) 前頭葉 α 波のフィードバック増強. 志賀一雅, 松岡洋一, 佐々木雄二 1982 バイオフィードバック研究, 9巻1-4.
- 63) BFT および AT における Frontal EEG α 波について. 松岡洋一, 志賀一雅, 佐々木雄二 1982 バイオフィードバック研究, 9巻5-9.
- 64) 集団自律訓練法に関する研究—小集団自律訓練法における検討—. 松岡洋一, 佐々木雄二 1982 自律訓練研究, 4巻1号65-72.
- 65) イメージ・トレーニング. 1983 教育と医学, 31巻1号79-85.
- 66) 自律訓練法. 1983 現代のエスプリ, No.186「心身症」, 153-160. (「内科」1981年4月号所収)
- 67) 心身症への自律訓練法の応用. 松岡洋一, 佐々木雄二 1983 カレント・セラピー, 1巻5号104-112.
- 68) 図説・手技研究—自律訓練法の実際. 1983 日経メディカル, 150号112-116.
- 69) 前頭葉 α 波のフィードバック増強 (第3報). 志賀一雅, 松岡洋一, 佐々木雄二 1983 バイオフィードバック研究, 10巻51-54.
- 70) Frontal EEG- α 波の BFT に関する研究 (第4報). 松岡洋一, 志賀一雅, 今井保次, 佐々木雄二 1983 バイオフィードバック研究, 10巻55-59.
- 71) 瞑想と精神療法. 1983 日本医事新報, 3130号133.
- 72) 自律訓練中の「魔境現象」に関する一考察—症例を通して—. 1983 自律訓練研究, 5巻1号35-40.
- 73) 集団自律訓練法に関する研究 (第2報)—小集団自律訓練法における検討(2)—. 松岡洋一, 佐々木雄二 1983 自律訓練研究, 5巻1号43-51.
- 74) α 波コントロール能力に及ぼす不安の影響. 笠井仁, 植木邦夫, 佐々木雄二 1984 バイオフィードバック研究, 11号42.
- 75) 精神疾患へのアプローチ (29)・自律訓練法. 1984 日本医事新報, 3144号160-161.
- 76) 自律訓練法の実際と効果的な方法. 佐々木雄二, 笠井仁 1984 労働安全衛生広報, 372号28-32.
- 77) 太極拳・自強術の効用 (質疑応答). 1985 日本医事新報, 3177号134-135.
- 78) 催眠におけるリラクセーション, 3, 自律訓練法の立場から. 1985 催眠学研究, 29巻1・2合併号58-60.
- 79) 自律神経失調症の治療(3), 自律訓練法とバイオフィードバック. 坂入洋右, 杉江征, 佐々木雄二 1985 小児看護, 8巻12号1607-1612.
- 80) 登校拒否治療における継時近接法とトークン・エコノミー法の役割について. 鈴木聡志, 小林正幸, 佐々木雄二 1985 行動療法研究, 11巻1号42-50.
- 81) ストレス病の訓練と療法. 1986 地域保健, 17巻3号36-44.
- 82) ストレス・マネージメント. 1986 厚生, 41巻5号25-27.
- 83) 自律訓練法の指導資格問題. 佐々木雄二, 桂戴作 1986 自律訓練研究, 6巻2号
- 84) 巻頭言:セラピスト・スピリット. 1986 筑波大学臨床心理学論集, 2号1.
- 85) 日本自律訓練学会第8回大会を主催して. 1986 筑波大学臨床心理学論集, 2号83.
- 86) 登校拒否児の両親にATを指導した事例について. 坂入洋右, 佐々木雄二 1986 第9回日本自律訓練学会大会抄録集, 17.
- 87) 危機の克服・脱出法—自律訓練法. 1986 青年心理, 60号106-109.
- 88) 自律訓練法. 小澤真, 笠井仁, 佐々木雄二 1987 Mebio, 4巻3号61-64.
- 89) 自律訓練法によるストレスマネージメント. 筒井末春, 佐々木雄二, 中野弘一 1987 1986年度健康情報調査報告書, 5-16. (健康・体力づくり事業財団)
- 90) ATの患者用入門書 (質疑応答). 1987 日本医事新報, 3287号133.
- 91) バイオフィードバックとセルフコントロール. 杉江征, 佐々木雄二 1987 心理学評論, 29巻1

号 70-87.

- 92) 門前氏の論文を読んで. 杉江征, 佐々木雄二 1987 心理学評論, 29 巻 1 号 105-106.
- 93) 自律訓練法. 杉江征, 佐々木雄二 1987 発達の遅れと教育, 353 号 66-67.
- 94) 透析患者への自律訓練法. 神村栄一, 佐々木雄二 1987 透析, 3 巻 9 号 43-47.
- 95) 子どもにおけるストレスの発生メカニズム. 佐々木雄二, 坂入洋右 1987 児童心理, 41 巻 11 号 32-39.
- 96) 前田・坂野論文へのコメント. 1987 筑波大学臨床心理学論集, 第 3 集 59-60.
- 97) 第 48 回日本心身医学会関東地方会を担当して. 1987 筑波大学臨床心理学論集, 第 3 集 117.
- 98) 心身問題—心身医学の立場から—. 1988 教育と医学, 36 巻 2 号 10-16 (~81).
- 99) イメージによる末梢皮膚温の制御—イメージ能力の個人差の影響—. 笠井仁, 杉江征, 佐々木雄二 1988 筑波大学心理学研究, 10 号 191-197.
- 100) 開業医に必要な心身症の知識と実際(その 1) 自律訓練法とは何か. 1988 研修講演抄録集(大和臨床医学談話会), 17 巻 52-56.
- 101) 自律訓練法. 佐々木雄二, 笠井仁, 松岡洋一 1988 心身医学, 28 巻 3 号 229-236.
- 102) 空間感覚練習(Space Exercise)に関する一考察. 松岡洋一, 松岡素子, 佐々木雄二 1988 自律訓練研究, 8 巻 1・2 号 47-54.
- 103) 生理学的アプローチ(序). 1988 ストレスと人間科学, 3 号 66.
- 104) 第 10 回日本自律訓練学会報告. 1989 心身医学, 29 巻 1 号 101-102.
- 105) 自律訓練法—子どもへの応用—. 1989 児童心理, 43 巻 6 号 104-105.
- 106) 職域におけるストレスと精神健康. 1989 消化器集団検診, 83 号 147-149.
- 107) イメージ想起法の違いが, 系統的脱感作による恐怖・不安反応の低減に及ぼす効果—反応命題による高覚醒イメージの検討—. 神村栄一, 佐々木雄二 1989 日本行動療法学会第 15 回大会発表論文集, 76-77.
- 108) シンポジウム 13-1, サイコセラピーにことばはどこまで必要か? 1989 日本心理学会第 53 回大会発表論文集, S 39.
- 109) 心身症—最近の動向(10): セルフコントロール法. 神村栄一, 佐々木雄二 1989 メディカル・ヒューマニティ, 4 巻 3 号 71-82.
- 110) 社会人, 大学生の教育ストレス. 1990 教育と医学, 38 巻 1 号 18-22.
- 111) 自律訓練法の歴史. 1990 心身医療, 2 巻 2 号, 15-19.
- 112) 森田療法と自律訓練法との比較検討: とくに森田の「あるがまま」と自律訓練法の受動的注意集中, 受動的態度との関係について. 佐々木雄二, 杉江征, 坂入洋右, 神村栄一, 小澤真, 井上忠典 1990 岡本記念財団研究助成報告集, 1 号, 25-28.
- 113) 抑圧—感作次元が脅威刺激下の情動反応に及ぼす影響—イメージ想起時と現実暴露時の比較から—. 神村栄一, 佐々木雄二 1990 筑波大学心理学研究, 12 号, 191-198.
- 114) 自律訓練法の解説と実習. 1990 全国大学保健管理協会 第 27 回関東甲信越地方部会研究集会報告書, 67-92.
- 115) バイオフィードバック研究の新しい動向: 行動医学の立場から—レイノー症候群のバイオフィードバック療法を手掛かりにして—. 1990 バイオフィードバック研究, 17 巻, 40-41.
- 116) 受動的注意集中—その教示の実際と意義. 1990 自律訓練研究, 10 巻 1, 2 号, 15-19.
- 117) 受動的注意集中の心理的効果に関する研究 生月誠, 佐々木雄二 1990 自律訓練研究, 10 巻 1, 2 号, 45-57.
- 118) シンポジウム「催眠とは何か—私の催眠療法」司会のことば. 花沢成一, 佐々木雄二 1990 催眠研究, 34 巻 2 号, 20-21.
- 119) シンポジウム「催眠とは何か—私の催眠療法」まとめ. 花沢成一, 佐々木雄二 1990 催眠研究, 34 巻 2 号, 32-33.

- 120) 学校不適応児の事例研究：神経症・心身症．1990 指導と評価, 36 巻 9 号, 33-36.
- 121) 空間感覚練習における主観的变化について—その臨床的応用の可能性の検討—．佐々木雄二, 松岡洋一 1990 自律訓練研究, 11 巻 2 号 10-15.
- 122) 標準訓練で用いられる暗示公式の言葉の単純化の心理的効果．生月誠, 佐々木雄二 1990 自律訓練研究, 11 巻 2 号, 32-39.
- 123) Semen-Loss Syndrome: A Comparison between SriLanka and Japan. Ratnin Dewaraja and Yuji Sasaki 1991 American Journal of Psychotherapy, 45, 1, 14-20.
- 124) 瀧澤論文へのコメント．1991 筑波大学臨床心理学論集, 第 6 集, 63-64.
- 125) メスメルの故郷を訪ねて—第 5 回ヨーロッパ催眠学会議参加報告—．笠井仁, 佐々木雄二 1991 筑波大学臨床心理学論集, 第 6 集, 65-71.
- 126) A Left to Right Hemisphere Callosal Transfer Deficit of Nonlinguistic Information in Alexithymia. Ratnin Dewaraja and Yuji Sasaki 1990 Psychotherapy and Psychosomatics, 54(4), 201-207.
- 127) 系統的脱感作法による恐怖・不安低減効果とイメージ想起のストラテジー—反応志向想起と刺激志向想起の比較から—．神村栄一, 佐々木雄二 1991 行動療法研究, 17 巻 2 号, 29-38.
- 128) “とらわれ”傾向の測度の開発と臨床的検討．坂入洋右, 佐々木雄二 1991 メンタルヘルス岡本記念財団, 研究助成報告集(3), 107-109.
- 129) 大学生における自我同一性と分離個体化の関連について．井上忠典, 佐々木雄二 1992 筑波大学心理学研究, 14 号, 159-170.
- 130) 浜野論文(一年間に脚を四回も骨折した少年)へのコメント．1992 筑波大学臨床心理学論集, 第 7 集, 65-66.
- 131) 自律訓練法によるセルフコントロール—Kさんの10年間の経過を通して—．1992 催眠学研究, 36 巻 1 号, 38-40.
- 132) 生命科学と仏教・禅．1992 教化研修(駒沢大学曹洞宗教化研修所紀要), 35 号, 96-117.
- 133) 1880年代のソ連における自律訓練法研究について．鈴木聡志, 佐々木雄二, 吉田倫幸 1992 自律訓練研究, 13 巻 1 号, 1-6.
- 134) 身体感覚の再現がイメージ想起に及ぼす影響．田中輝美, 佐々木雄二 1992 行動療法研究, 18 巻 2 号, 38-42.
- 135) ストレス緩和法としての自律訓練法—現代社会の「構造ストレス」に対処するために—．1992 教育と医学, 40 巻 11 号, 80-86.
- 136) ストレス・マネジメントの方法, リラクゼーション．1992 ナース+ワン, 2 巻 13 号(臨時増刊号), 64-67.
- 137) Eastern Techniques Concerning the Health of the Mind and the Body. 1992 Japanese Health Psychology, Vol.1, No.1, 39-44.
- 138) 東洋の行法, とくに禅冥想による治療的研究の展望．1993 心理学評論, 35 巻 1 号, 113-131.
- 139) 「心理学相談室」の発足に当たり, 心理相談員の要件を考える—とくに相談研修員のために—．1993 筑波大学臨床心理学論集, 第 8 集, 1.
- 140) 催眠法ならびに自律訓練法よりみた心身医療の専門性．佐々木雄二, 栗山一八, 生月誠 1993 心身医療, 5 巻 5 号, 59-64.
- 141) リラクゼーションという観点から見た自律訓練法．佐々木雄二, 伊東明子 1993 現代のエスプリ 311: リラクゼーション, 83-91.
- 142) 自律訓練法と Alexithymia. 松岡洋一, 佐々木雄二 1993 自律訓練法, 13 巻 2 号, 18-25.
- 143) 性格特性が重感練習の習得に及ぼす影響—不安および社会的望ましさを尺度として—．生月誠, 神村栄一, 佐々木雄二 1993 自律訓練法, 13 巻 2 号, 54-59.
- 144) 巻頭言：自律訓練法の教育現場への導入—いぼはぐんにゃり, いぼぼろり—．1994 教育相談

- 研究, 第 74 号, 1.
- 145) 不安, 抑うつ, 怒りの感情誘発場面の分析. 鈴木常元, 佐々木雄二 1994 筑波大学心理学研究, 第 16 号, 255-262.
- 146) 対処方略が精神生理学的反応に及ぼす影響: effortful 方略と distressful 方略の比較. 神村栄一, 佐々木雄二 1994 人間科学研究 (早稲田大学人間科学部), 7 卷 1 号, 15-21.
- 147) 職場のメンタルヘルスと自律訓練. 1994 職場のメンタルヘルス—講演集 II—, 71-80. (地方公務員安全推進協会)
- 148) 恐怖イメージの鮮明さ—細分の意義について. 田中輝美, 佐々木雄二 1994 行動療法研究, 20 卷 1 号, 10-19.
- 149) TM (超越瞑想) 実習のストレス場面に及ぼす心理生理的効果の研究. 斎藤義浩, 佐々木雄二 1994 催眠学研究, 38 卷 1 号, 20-26.
- 150) 治療の理論と実際, 自律訓練法. 佐々木雄二, 斎藤義浩 1994 臨床看護, 20 卷 6 号, 849-855.
- 151) 息抜きの効用—心身医学の立場から—. 1994 教育と医学, 42 卷 8 号, 21-27.
- 152) 北米 (西海岸) における東洋的行法の研究と普及の現状. 1994 世界における東洋医学研究の現状 (東洋医学の人間科学的研究プロジェクト, 研究報告書 No.4) 早稲田大学人間総合研究センター, 125-135.
- 153) 東洋的行法から健康法・治療法への系譜. 1995 東洋医学の人間科学IV (早稲田大学人間科学部), 143-187.
- 154) 自律訓練法—内科医にもできる心身医学的治療法—. 1995 Medicina, 32 卷 6 号, 1130-1132.
- 155) On Makyo Phenomena During Autogenic Training. 1995 Imagination, 17, 2, 82-91
- 156) 産業人におけるメンタルヘルス促進の試みとその評価—集団自律訓練法を導入したストレスコーピングプログラム—. 村上正人, 桂戴作, 佐々木雄二, 笠井仁, 小田晋, 菊地長徳, 河野友信, 一ノ渡尚道, 今井保次, 飯田進一郎, 国吉空, 後藤敦 1996 心身医学, 36 卷 2 号 161-167.
- 157) 心身の健康と東洋的行法. 1996 東洋医学の人間科学V 139-159. (早稲田大学人間科学部)
- 158) 心身医学と自律訓練法—心身医学的治療法の基盤としての自律訓練法—. 1996 東洋医学の人間科学的研究プロジェクト研究報告書 No.7, 39-43. (早稲田大学人間総合研究センター)
- 159) 自律訓練法の重感練習過程に関する研究—腕重感への留意と腕重感の公式言語による主観的反応の因子分析的研究—. 生月誠, 佐々木雄二 1996 心理学研究, 66 卷 6 号 443-448.
- 160) 軽催眠下における抑うつ者の攻撃性. 鈴木常元, 佐々木雄二 1996 催眠学研究, 40 卷 1・2 号 16-22.
- 161) La psicoterapia en Japan. 1996 Revista Argentina de Clinica Psicologica, Vol.5, Nr.3, p. 283-289.
- 162) 開腹術後障害に自律訓練法を適用した一症例. 伊東明子, 石川俊男, 吾郷晋浩, 佐々木雄二 1996 自律訓練研究, 16 卷 1 号 70-77.
- 163) ストレス緩和法: 自律訓練法. 1997 薬の知識, 48 卷 2 号 16-20.
- 164) Decreased Cytotoxic Lymphocyte Counts in Alexithymia. R. Dewaraja, T. Tanigawa, S. Araki, A. Nakata, N. Kawamura, Y. Ago, Y. Sasaki 1997 Psychotherapy and Psychosomatics, Vol.66, 83-86.
- 165) 心身症の治療: 自律訓練法. 1997 心療内科, 1 卷 3 号 240-247.
- 166) 自律訓練法(1): 自律訓練法とは何か. 1997 心身医療, 10 卷 1 号 89-91.
- 167) 自律訓練法(2): 自律訓練法の総括的定義. 1998 心身医療, 10 卷 2 号 90-93.
- 168) 自律訓練法(3): 練習の進め方. 1998 心身医療, 10 卷 3 号 85-89.
- 169) 自律訓練法(4): 第 1 公式 (四肢重感練習) の指導. 1998 心身医療, 10 卷 4 号 92-95.
- 170) 自律訓練法(5): 第 2 公式 (四肢温感練習) の指導. 1998 心身医療, 10 卷 5 号 87-91.
- 171) 自律訓練法(6): 第 3 公式 (心臓調整練習) と第 4 公式 (呼吸調整練習) の指導. 1998 心身医療,

- 10 卷 6 号 110-114.
- 172) 自律訓練法(7)：第 5 公式（腹部温感練習）と第 6 公式（額部涼感練習）の指導．1998 心身医療，10 卷 7 号 98-103.
- 173) 自律訓練法の 21 世紀へ向けての展望(1)―世界の歴史と国際的動向―．1998 自律訓練研究，17 卷 1・2 号 3-9.
- 174) 企業における集団自律訓練法の生理的効果．村上正人，桂戴作，佐々木雄二ほか 1998 自律訓練研究，17 卷 1・2 号 80-86.
- 175) Understanding of the eating disorders continuum and diagnosis of eating disorders: Is there any boundary between diagnosed and non-diagnosed individuals? Mika Omori & Yuji Sasaki 1998 Tsukuba Psychological Research, **20**, 207-216 (筑波大学心理学研究 20 号, 207-216.)
- 178) フィットネス出産へのアプローチ：自律訓練法によるリラクゼーション。(対談) 佐々木雄二・九島璋二 1998 助産婦雑誌，52 卷 11 号 41-46.
- 179) Sleep Disturbances in Older Adults: From a Perspective of Health Psychology. Mika Omori and Yuji Sasaki 1998 Japanese Health Psychology, No.6, 33-49.
- 180) アレキシサイミアは一次元的特性なのか？―2 因子モデルアレキシサイミア質問紙の作成―。後藤和史，佐々木雄二 1999 筑波大学心理学研究，21 号，163-172.
- 181) 知覚されたソーシャルサポート尺度の計量心理学的特性の検討。宮崎隆穂，佐々木雄二 1999 筑波大学心理学研究，21 号，187-195.
- 182) 「通信自律療法」の開発(1)…その契機：2 対の往復書簡を中心に。1999 駒澤大学心理学論集，1 号，71-78.
- 183) 精神症状のアセスメント。1999 健康心理・教育学研究，5 卷 1 号
- 184) 自律訓練法の 21 世紀へ向けての展望(2)―わが国の歴史と今後の課題―。1999 自律訓練研究，18 卷 1 号
- 185) Zazen and cardiac variability. Lehrer, P., Sasaki, Y. and Saito, Y. 1999 Psychosomatic Medicine, **61**(6), 812-821.
- 186) 健康と自律訓練法。2000 ヘルス・サイコジスト No.21,1.
- 187) 夢七話。2000 Mind-Body Science,10 号,14-17.
- 188) 「通信自律療法」の開発(2)…第 1 公式（四肢重感練習）の指導を通して。2000 駒澤大学心理学論集 2 号，89-97.
- 189) 池見酉次郎先生と自律訓練法。2000 自律訓練研究，第 18 卷 2 号，1.
- 190) 「通信自律療法」の開発(3)…第 2 公式（四肢温感練習）の指導を通して。2001 駒澤大学心理学論集 3 号，11-18.
- 191) 行動医学と自律訓練法を基盤にした心理医療―自律訓練法の立場から折衷的サイコセラピーの可能性を探る―。2001 行動医学研究，第 7 卷 1 号，18-22.
- 192) 20 世紀の催眠が医学に与えた影響。2001 催眠学研究，第 46 卷 1 号，1-16.
- 193) 自己暗示の呈示様式が暗示の体験に及ぼす影響。田村英恵，佐々木雄二 2001 催眠学研究，第 46 卷 1 号，31-39.
- 194) 第 3 回日本トランスパーソナル心理学／精神医学会を主催して（巻頭言）。2002 JATP ニューズレター，3 号，1.
- 195) Comprehensive Medicine―全人的医療―。2002 4 卷 2 号.
- 196) 第 24 回日本内観学会印象記。2002 内観研究，第 8 卷 1 号，75-76.
- 197) 自律訓練法の集団指導についての検討―職場のメンタルヘルスにかかわる人々を対象にして―。原節子，佐々木雄二ほか 4 名 2002 自律訓練研究，第 21 卷 1・2 号，1-6.
- 198) サイコセラピー研究（巻頭言）。2003 日本サイコセラピー学会雑誌 4 卷 1 号，2.
- 199) 交流分析とサイコセラピー（巻頭言）。2003 交流分析研究 28 卷 1 号 2-3.

- 200) Invited Paper: Psychotherapy in Japan. 2003 First International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy on Psychotherapy, Yoga and Traditional Therapies: Dialogue between East and West. Abstracts and Invited Papers, p.45-52.
- 201) 行動主義的カウンセリング. 2004 教育時評, 3号 34-37. (特集・学校経営とスクールカウンセリング, (財) 学校教育研究所)
- 202) シンポジウム: Research, Practice and Solution Challenges in Applied Psychology in Japan: Past, Present and Future. 長塚康弘, 向井希広, 福原真知子, 蓮花一己, 佐々木雄二, E. ネイヤー, 内藤哲雄 2005 応用心理学研究, 30 巻 2 号 110-133.
- 202) 大学生のデイリーハッスルズとタイプA行動パターン, およびアレキシサイミアの関連. 佐瀬竜一・児玉健司・佐々木雄二 2005 駒澤大学心理学論集, 7号, 43-50.
- 203) 第1空間感覚練習が標準練習の変化におよぼす影響. 佐瀬竜一, 佐々木雄二 2005 自律訓練研究, 24 巻 1・2号 24-36.
- 204) タイプA行動パターンに及ぼす自律訓練法の心理生理的効果. 大村一史, 斉藤義浩, 佐々木雄二 2005 自律訓練研究, 24 巻 1・2号 46-57.

3. 国際学会・国際会議

- 1) 第3回国際心身医学会議 (The 3rd Congress of the International College of Psychosomatic Medicine, ローマ, イタリア) 1975 ①“Psychological and Psychodynamic Aspects of Zen Meditation and Approaches of Autogenic Training”. (禅冥想の心理学的および精神力動的側面と自律訓練法のアプローチ) ②“Zen Practice (Zazen) and Autogenic Training: A Comparison of Experimental Findings”. (禅と自律訓練法) (連名, 3人, 筆頭発表者) ③国際自律訓練法委員会 (ICAT) への参加。(駒澤大学・短期外国出張・補助金)
- 2) ドイツ精神分析アカデミー国際シンポジウム (The International Symposium of the German Academy of Psychoanalysis, デュッセルドルフ, ドイツ) 1976 “The ‘positive’ and ‘negative’ stages of the ‘altered stages of consciousness’ induced by autogenic training, Zen, and yoga.” (自律訓練法, 禅およびヨーガによって誘発される変性意識状態の陰性段階および陽性段階)
- 3) 「生産性の船」(日本生産性本部) 1980 寄港地: 香港とマニラ, フィリッピン. 研修会講師として参加. 船内において実験的研究(松下技研との共同研究: 脳波アルファ波フィードバック装置の開発実験)
- 4) 第6回国際心身医学会議 (The 6th Congress of the International College of Psychosomatic Medicine, モントリオール, カナダ) 1981 “Zen and Psychosomatic Medicine” (禅と心身医学) Dr. Luthe の研究室および Dr. H. Selye のストレス研究所を訪問。
- 5) 第9回世界セクソロジー学会 (The 9th World Congress of Sexology, カラカス, ベネゼイラ) 1989 “Semen Loss Related Anxiety Conditions in Sri Lanka” (連名, 2人)。
- 6) 国際シンポジウム (東京・駒澤大学) 1990 “Eastern Techniques for Mental and Physical Health around the World” (東洋的行法と心身の健康) 米国, オーストラリア, アイルランド, 中国の研究者とともに, シンポジストとして参加。
- 7) 第5回ヨーロッパ催眠と心身医学会 (5th European Congress of Hypnotism in Psychotherapy and Psychosomatic Medicine, コンスタンツ, 西独) 1990 “Right Hemispheric Information Processing speed and the Depth of Hypnosis”. (連名, 2人) 研究交流 (とくに西独, 東独, オーストリア, スイス, チェコ・スロヴァキアの自律訓練法研究者を訪問)。
- 8) 第5回国際アジア心身医学会 (The 5th Congress of the Asian Chapter of the International College of Psychosomatic Medicine, 台北, 台湾) 1992 “Experimental Measurement of Inter-hemispheric Transfer Speed in Alexithymia”. (連名, 3人)
- 9) 北米における東洋的行法の研究動向調査 1992 禅, TM, ヨーガなど, 東洋的行法研究機関の視

- 察にカナダ, 米国を訪問. (早稲田大学人間総合研究所・客員研究員として短期外国出張)
- 10) 1993 ① International Congress of Health Psychology (実行委員). ② The 3rd International Conference on Biobehavioral Self-regulation and Health (実行委員)
 - 11) 再開第1回国際自律訓練委員会 (The First Meeting of the International Committee for Autogenic Training, Autogenic Therapy and Autogenic Psychotherapy: ICAT, ウィーン, オーストリア) 1994 Austria, France, Germany, Hungary, Italy, Japan, Spain, United Kingdom の8カ国が参加して開催され, President (座長) に選出される。その後, 英国, ドイツを訪問。
 - 12) 早稲田大学・中国学術交流訪問団 1995 医療気功訪問団の一員として中国・北京 (北京大学, 北京中医薬大学), 上海 (上海中医薬大学), 寧波 (阿育王山広利寺, 天童山景德禪寺) などを公式訪問。北京中医薬大学において自律訓練法について講演. (早稲田大学人間総合研究所客員研究員として, 短期外国出張)。
 - 13) 第1回世界サイコセラピー会議 (The First Congress of the World Council for Psychotherapy, ウィーン, オーストリア) 1996 ①シンポジウム: “The Incorporation of Eastern Religious Training in Psychotherapy”. ②基調講演 (Keynote Address): “Psychotherapy in Japan”. ③シンポジウム: “Autogenic Training through Correspondence: A Case Report of 1000 Days of Treatment”. を発表。④“Ritual Healers of Sri Lanka: Providers of Psychotherapy in the Ritual Setting”. (連名, 2人) (文部省科学研究費)
 - 14) 第10回世界精神医学会議 (The 10th World Congress of Psychiatry, マドリッド, スペイン) 1996年 “Health Promotion through a Group Autogenic Training Program: Better Health of Company Employees at Biological, Psychological and Social Levels”. (連名, 12名, 筆頭発表者)
 - 15) 第14回世界心身医学会議 (The 14th World Congress of Psychosomatic Medicine, Cairnes, Australia) 1997 “An Association Between Pollinosis and Alexithymia; A Study of IgE Levels”. (連名, 5人)
 - 16) The 5th Transnational Network for the Study of Physical, Psychological, and Spiritual Wellbeing 1998 テーマ: Qigong, Meditation, and Hypnosis 早稲田大学客員研究員として討議に参加。
 - 17) 世界サイコセラピー会議・アジア部会 (Asian Chapter, World Congress of Psychotherapy, 北京, 中国) 1998 国際シンポジウム: Psychotherapy and Eastern Thoughts (サイコセラピーと東洋思想) を会長として主宰. “The Influence of Buddhism on the Psychotherapy”.
 - 18) World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies Member of Scientific Program Committee. 1998
 - 19) 第2回世界サイコセラピー学会 (The 2nd World Congress for Psychotherapy, ウィーン, オーストリア) 1999 ① Keynote Lecture (基調講演): “The Meaning of Meditation in Psychotherapy” (30分) ② Special Lecture (特別講演): “The Application of Autogenic Training at the Workplace in Japan”. (80分) ③ Sub-symposium: Psychotherapy in Asia (Coordinator) ④理事会 (副会長), アジア部会 (2回) などに出席。(駒澤大学・短期外国出張・補助金)
 - 20) 1999 国際自律訓練委員会・ウィーン会議 (1999 ICAT Meeting in Vienna, ウィーン) 1999 テーマ: Beyond the Standard Exercises: Meditative Exercise and Analytic Advanced Autogenic Training (標準練習を超えて: 冥想練習と分析的上級練習) を, 会長として主宰
 - 21) 第11回世界精神医学会議 (The 11th World Congress of Psychiatry, ハンブルグ, ドイツ) 1999 自律訓練法と医学催眠部門のシンポジウム: Evidence-based Therapy with Autogenic Training. “The Application of Autogenic Training at the Workplace in Japan”.
 - 22) 1999 国際自律訓練委員会・ハンブルグ会議 (1999 ICAT Meeting in Hamburg, ハンブルグ, ドイツ) 1999 テーマ: Scientific Data Base of Autogenic Training in Prevention, Therapy and Rehabilitation (予防, 治療, リハビリテーションにおける自律訓練法の科学的データ・ベース) を主

率。

- 23) 第6回 Transnational Network for the Study of Physical, Psychological, and Spiritual Well-being の討議に参加(早稲田大学客員研究員として短期外国出張)。2000(アムステルダム, オランダ& アーヴァイン, 米国)
- 24) 2000 アジア健康心理学会 (2000 Asian Congress of Health Psychology–Health Psychology and Culture-, 東京) 2000 Chair: “Symposium: Trend of Health Psychology in Asia” (シンポジスト: 中国, インドネシア, 韓国, シンガポール, 日本) および Committee Member として関与
- 25) 第9回国際心身医学会アジア部会 (The 9 th Congress of Asian Chapter of the International Psychosomatic Medicine, 東京) 2000 “Ikemi’s Memorium Symposium: From the Viewpoint of Autogenic Training”.
- 26) 国際サイコセラピー会議 (International Congress on Psychotherapy in China-Kunming, 昆明, 中国) 2001 ①WCP 副会長 (アジア選出) の立場で共同開催者 (Co-sponsor) として, 開会式・閉会式などに関与. ②基調講演: “Psychotherapy in Japan”. ③ Workshop: “The Techniques and the Availability of Autogenic Training”.
- 27) 国際健康心理学会 (International Society for Health Psychology Research, シンガポール) 2002 Themes: Stress & Coping, Health Promotion, HIV & AIDS など, 東南アジアにおける健康心理学の現状について討議
- 28) 第25回国際応用心理学会 (The 25th International Congress of Applied Psychology, シンガポール) 2002 シンポジウム: Problems of Researches, Practices and Solutions in Applied Psychology in Japan: Past, Present and Future において “Health Psychology and Autogenic Training at Workplace”.
- 29) 第3回世界サイコセラピー会議 (The 3rd World Congress for Psychotherapy, ウィーン) 2002 ①副会長として理事会 (The Board Meeting of the WCP) ②総会, 開会式への関与 ③基調講演 (50分): “Psychotherapy for the Bio-Psycho-Socio-Existential Being—Multi-dimensional Psychotherapy—”. ④アジア部会ビジネスミーティングを部会長として主宰.
- 30) 第11回世界精神医学会議 (The 11th World Congress of Psychiatry, 横浜) 2002 シンポジウム: Modifications of Autogenic Training in East and West (自律訓練法の修正法—東と西) を企画 (独・仏・伊・日), 司会.
- 31) 国際自律訓練法ワークショップ (東京) 2002年8月 (平成14年8月) 日本自律訓練学会主催で独, 仏, 伊における自律訓練法の実践について, ワークショップを行い, その司会を担当.
- 32) 日本健康心理学会設立15周年記念・国際集会 (東京) 2002 Professor George D. Bishop による記念招待講演: Ethnic Differences in Cardiovascular Reactivity in Asia の司会.
- 33) 第34回米国バイオフィードバックと精神生理学会年次大会 (American Society of Biofeedback and Psychophysiology, フロリダ, 米国) 2003 招待講演: “Research and Applications of Autogenic Training and Related Methods with Breathing Exercises in Japan”.
- 34) フランス・心理療法的リラクゼーション学会 (La Societe Francaise de Relaxation Psychotherapique (ボルドー, フランス) 2003 招待講演: “The Role of Relaxation (AT) in Various Psychotherapies”
- 35) 第1回アジア・サイコセラピー会議 (The First International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, サガール, 印度) Vice-president of WCP として関与 ①特別講演: “Psychotherapy in Japan” ②講演: “Reconsideration about the Influences of Yoga upon Autogenic Training andAutogenic Therapy” ③一般演題: The influence of Space Exercise on effect of Standard Exercise in Autogenic Training. (Y. Sase & Y. Sasaki)
- 36) 第11回国際ペインクリニック学会 (東京, 日本) 2004 Organizing Committee メンバーとして
- 37) 第28回国際心理学会 (28-th International Congress of Psychology, Beijing, China) 2004 シン

- ポジウム講演：“Autogenic Training as a Method of Health Psychology”
- 38) 第2回アジア健康心理学会 (The Second Asian congress of Health Psychology, Seoul, Korea) 2004 ①シンポジウム講演：“Autogenic Training as a Method of Health Promotion” ②ポスター発表：“Examination of the Effect of State Anxiety Reduction by Abdominal Breathing with Suggestion” (M. Takeshi and Y. Sasaki)
- 39) 第2回アジア・サイコセラピー会議 (2-nd Asian Psychotherapy Congress, Tehran, Iran) 2004 口頭発表：“Comparison of psychological and physiological responses in passive concentration and active concentration of Autogenic Training” (R. Sase & Y. Sasaki)
- 40) 第11回アジア心身医学会 (The 11-th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, 那覇) 2004 ポスター発表：The position of autogenic training in the integrative psychosomatic therapy: The role of autogenic training in the holistic approach to bio-psycho-socio-exist-spiritual being
- 41) 国際心身医学会 (International Congress for Psychosomatic Medicine, 神戸) 2005
- 42) 第4回世界サイコセラピー会議 (The 4th World Congress for Psychotherapy, Buenos Aires, Argentina) 2005 ①副会長として理事会 (The Board Meeting of the WCP) ②開会式で、副会長としての挨拶と2006年国際サイコセラピー会議の宣伝 ③アジア部会ビジネスミーティングを部会長として主宰 ④一般演題発表：Examination of Group Autogenic Training in Psychological Clinic. (R. Sase & Y. Sasaki)
- 43) 2006年国際サイコセラピー会議イン・ジャパンおよび第3回アジア国際サイコセラピー会議 (2006 International Congress for Psychotherapy in Japan and Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy) 2006, 東京に、大会長として基調講演、開会式、閉会式などに関与

4. 訳書

- 1) 精神分析的研究からみた二、三の性格類型 1970 フロイト フロイト著作集『自我論・不安本能論』, 114-136. 人文書院
- 2) 自律訓練法の指導実際 池見酉次郎, 佐々木雄二 1970 H.クラインゾルゲ, G.クルンビーズ 岩崎学術出版
- 3) 自律訓練法II：医学的応用 1971 W.ルーテ, J.H.シュルツ 誠信書房
- 4) 創造性開発法 分担訳：佐々木雄二, 3-39. 1981 W.ルーテ 誠信書房
- 5) 自律訓練法における空間感覚練習の開発について 共訳：杉江征, 鈴木聡志, 笠井仁, 坂入洋右, 佐々木雄二 1986 W.ルーテ 自律訓練研究, 6巻2号53-57.
- 6) 第一空間感覚練習：長期練習者における血圧と心拍数の変化 共訳：笠井仁, 坂入洋右, 杉江征, 鈴木聡志, 佐々木雄二 1987 W.ルーテ 自律訓練研究, 7巻1・2号63-68.
- 7) ヨーロッパにおける自律訓練法およびその他の心理調整法 共訳：坂入洋右, 笠井仁, 佐々木雄二 1988 J.ホスコヴェック 自律訓練研究, 8巻1・2号55-59.
- 8) 健康心理学 分担訳：佐々木雄二, 192-216. 1990 J.C. ストーン (編著) 実務教育出版
- 9) 無意識のうちに行動する判断 訳：佐々木雄二 1990 J. ワイス サイエンス, 20巻5号 (通巻224号), 94-102.
- 10) 第一空間感覚練習：長期練習者の観察報告 共訳：鈴木聡志, 笠井仁, 坂入洋右, 杉江征, 佐々木雄二 1990 W.ルーテ 自律訓練研究, 11巻2号, 22-26.
- 11) 第二空間感覚練習：短期及び長期練習者の観察報告 共訳：坂入洋右, 杉江征, 笠井仁, 鈴木聡志, 佐々木雄二 1990 W.ルーテ 自律訓練研究, 11巻2号, 22-26.
- 12) 健康心理学入門 分担訳：佐々木雄二, 293-324. 1992 R.J. ギャッチェル, A.バウム, D.S. クラント 金子書房

- 13) 自分に気づき自分を変えるー創造的自己催眠プログラムー 監訳：佐々木雄二 1993 R.A. ストラウス 実務教育出版
- 14) 超越冥想(トランセンデンタル・メディテーション：TM) 訳：佐々木雄二 1993 チャールズ・N・アレキサンダー マハリシ・アーユルヴェーダ研究, 3巻2号, 23-28.
- 15) 催眠分析 分担訳：佐々木雄二, 1-99. 1995 ルイス・R.ウォルバーグ 新興医学出版社
- 16) 催眠法ー心とからだの「治る力」を引き出す本 訳：佐々木雄二 1999 マリー・E・ハンター 講談社
- 17) タイプA行動の診断と治療 分担訳：佐々木雄二, 3-57. 2001 M.フリードマン 金子書房
- 18) イメージ療法ハンドブック 分担訳：佐々木雄二, (第14章：動物イメージ, チャクラ・システム, 心理療法) 276-289. 2003 A.A.シェイク 誠信書房

5. 監修書

- 1) 定本キム式速読法 監修：佐々木雄二, 訳：久住博 1986 金湧真(キム・ヨングジン) 著 朝日出版
- 2) KIM 式英文速読法 監修：佐々木雄二 1986 金湧真(キム・ヨングジン) 著 朝日出版
- 3) 1998年度特別保健福祉事業 健康保険組合におけるメンタル・ヘルスの啓蒙・健康増進モデル事業・報告書(A4版) pp.338, 1999 発行：健康保険組合連合会(検討委員会・委員長：佐々木雄二)

6. 辞典類項目執筆

辞典類は、児童臨床心理学事典、家庭医学大百科、情緒障害事典、言語障害事典、心で病気を治す事典、臨床心理用語事典1、臨床心理用語事典2、朝日新聞の健康相談、医科学大事典16、精神医学大事典、「ストレス・マネジメントと自律訓練法」、多項目教育心理学辞典、カウンセリング辞典、キーワード生徒指導、心理臨床大事典、学校教育相談カウンセリング事典、学校カウンセリング事典、事例発達臨床心理学辞典、スクールカウンセリング事典、健康心理学辞典、心身医学用語事典、以上21点に執筆。